

# 「再び神様から与えられた命」

瀧川憲洋 たきがわのりひろ

平成30年3月21日は私や家族にとってとても忘れられない日となりました。その日の夕方、私はいつものように校区の公民館で行われるまちづくり協議会の会議に出席し、途中から気を失い目覚めたときは2週間後の病院のICUのベッドの上でした。手や口に多くのチューブがあり、(いったいここはどこだ？自分の身に何が起こったのか?)とまだ薄い意識の中で不安や恐れと共に考えていました。目覚めた私に担当の看護師さんが「瀧川さんは心筋梗塞で倒れ救急搬送され大手術されたんですよ」と教えてくださいました。幸い、倒れた時の周囲の方々の心臓マッサージやAED等の適切な応急手当、救急隊員の俊敏な応急搬送、病院の医療チームの先生方やスタッフの皆様のおかげで大きな後遺症もなく生きて無事退院し、家で療養しながら元の日常生活に戻りつつあります。

しかし、入院中は「なぜこうなる前に医療機関受診をしなかったんだろう？」という後悔と自責の念、一方で助けて頂いたことへの感謝の気持ちが交錯していました。

私は元々、自他共に認めるほど身体が丈夫でしたが、年齢を経るに従い、人間ドックや検診で指摘されても病院通いや服薬が苦手を受診を避け続けておりました。今回の手術に際しても担当の先生が家族に「血管の詰まりが石灰化しています。こうなる前に医療機関受診されていたら負担の少ない治療が安心し

てできたかもしれません。」と忠告された通り、以前から検査データから少なからず警告サインが出ていたのは確かでした。しかし、「大丈夫だろう」とたかをくくっていましたがまさかこのような自己判断による変な自信の積み重ねが、命をも奪いかねない事態になるとは想像もできませんでした。私が倒れた知らせを聞いた妻もパニックになり最悪の事も頭をよぎったそうです。自分の不摂生から大きな心配をかけたことを妻や家族に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

今、私はとても大切なことに気付かされました。元気で生活できていた日々は奇跡なんだ、身体が発する様々なサインに謙虚でなければならぬんだと。併せて検診の大切さ、更にその結果によっては、かかりつけ医や専門病院受診することの大切さ、治療だけでなく生活習慣の改善指導についても積極的に相談することの大切さ等、自分の身体をしっかり見つめていくことでより健康を目指せるのではないかとあらためて深く教えられました。自分のためだけでなく、心配してくれた家族や周りの人々のためにも実行しよう。神様によって再び生きる使命を頂いたことに感謝して、今回の自分の貴重な体験を人に述べ伝え、自他共に喜びながら歩んでいきたいと心の底から思う事です。